

②4江戸情緒を醸し出す小名木川「塩の道」再生

受賞機関 東京都 建設局 江東治水事務所

全建賞審査委員会の評価ポイント

江戸開幕とともに塩などの関東各地からの物資を運ぶために開削された歴史を持つ「小名木川」で、護岸の改良と併せ耐震性向上のための低水路整備を行った事業。「塩の道」再生をコンセプトに、江戸情緒を感じられる水辺の散策路・航路となるよう、石積み風護岸や船着場、常夜灯、ヤナギなどを随所に配備したことを評価。

1. はじめに

小名木川は、江戸幕府開府の頃、行徳の塩などを江戸に運ぶために開削された河川（運河）である。小名木川周辺は明治以降の産業の発展に伴い地盤沈下が進行し、度重なる護岸の嵩上げが実施され、地震に対し極めて脆弱な状況となった。このため、隅田川や荒川に通じる閘門・樋門や排水機場を用いて平常水位を地盤面以下にする水位低下、不要となった上部護岸の撤去、耐震性向上を図る低水路整備を実施した。修景整備にあたっては「かつての塩の道にふさわしい江戸情緒を感じられる水辺の道」をテーマに平成18年から整備を開始した。

2. 事業の概要

本事業は、小名木川の上流部にあたる旧中川からの分流点から扇橋閘門まで約3kmの区間の整備を実施し、平成28年度に完了した。整備にあたっては、江戸時代に行徳の塩等を舟により江戸へ運んだ歴史にちなみ、「塩の道」再生をコンセプトとし、江戸情緒を感じられる水辺の散策路、航路となるよう工夫した。基本構想を決定するにあたっては、都民委員・行政委員からなる流域連絡会から意見をいただいた。同連絡会では、修景後の景観をイメージしやすいよう、イメージパースのほか、散策者の目線、船からの目線によるCG動画等を活用した。同連絡会での意見を踏まえ、かつての石積み護岸をイメージした修景、河岸を演出する船着場や常夜灯、木柵に近い質感の和風デザイン柵、江戸風模様の切石舗装等により、江戸情緒を醸し出すデザインとした。また、テラスには江戸の水辺にゆかりのある柳を中心に、葦、ガマを配置し修景にアクセントを加え、風格のある景観とした。

3. 事業の成果

小名木川の「塩の道」再生に加え、パナマ運河を彷彿させる扇橋閘門が人気となり、日本橋と東京スカイツ

リーを結ぶ新たな航路が開設されるなど、川からの景色を楽しむ観光船が行き交っている。また、水辺のテラスは歩行者が安全に通行できることから、地元住民の散策、ジョギングの場、近隣保育園の園児の遊び場となっている。さらに、小名木川と合流する旧中川や横十間川などと併せ、休日にカヌーやサップで江東内部河川を巡る愛好家が増えるとともに、ハゼ釣りの時期には釣り人などにぎわうなど、様々な水辺の楽しみ方が生まれており、小名木川は地域のシンボリックな存在となっている。



船着場と常夜灯



観光船が行き交う小名木川

4. おわりに

近年、水辺の賑わいを創出する事業が多く実施されるようになってきている。そうした事業においても、地域特性や歴史を反映させた整備を実施することにより、より多くの地域住民に愛される川づくりを進めていきたいと考えている。